

校歌(旧)

作詞 藤村 作(文学博士)
作曲 岡野 貞一(東京音楽学校教授)

一、そのかみ遠し 数千年
尽きせぬ流れ 米代の
水に皇国の 新しき
若き生命を汲みてしが
若き生命を汲みてしが



二、み空につづく 日本海
沖より寄する 巨濤の
巖つんざく 勢いに
強き力を 学びつつ
強き力を 学びつつ



三、皇国の相 樽子山
かわらぬ緑 松が枝に
御民我等の 香わしき
清き操を たぐへつつ
清き操を たぐへつつ



四、明治の帝 みさとしの
みむねは深し 能代潟
深きみ恵 身にしめて
ふるへ我が友 健男児
ふるへ我が友 健男児





秋田県立能代高等学校
東京同窓会



旅 愁

更け行く秋の夜 旅の空の
 わびしき思いにひとりなやむ
 恋しやふるさとをうかしき父母
 夢路になどうは故郷の家路
 更け行く秋の夜 旅の空の
 わびしき思いにひとりなやむ

窓うつ嵐に 夢しやぶれ
 遥けまかなたに 心まどろ
 恋しやふるさとをうかしき父母
 思いに浮かおは杜のこすえ
 窓うつ嵐に 夢しやぶれ
 遥けまかなたに 心まどろ

